



未来を夢見て

2021/2/22 No. 61

及川瑞基選手ご両親来校、論文表彰式に参加して

2月19日（金）、午前に第2回目の学校評議員会が開催され、評議員のみみじが丘幼稚園の山口園長先生、杜の丘2丁目区長の成重様をお迎えし、今年度の学校運営についてご意見をいただきました。

ちょうど評議委員会が終わったとき、先日の2021年天皇杯・皇后杯全日本選手権男子シングルスで優勝した及川瑞基選手のご両親が、本人が報告に行けないので、ということで校長室に優勝の報告においでくださいました。及川選手は平成23年度の本校の卒業生です。ご両親から小学校時代のエピソードや、卓球を始めたきっかけ、その後、青森山田中学校への進学の間経緯や、中学校卒業後ドイツへの留学のお話など、貴重なお話を伺うことができました。

中でも印象的だったのは「好きなことをとことんやらせる」というご両親の姿勢でした。言うのは簡単ですが、いざ自分も親として振り返ったとき、なかなかできることではない、と思いました。ご両親の瑞基さんへの信頼と深い愛情が今日の活躍につながっていることは間違いありません。ご両親からは瑞基さんから、ということでお米50kgも頂戴しました。活用については本校にお任せいただいたので、皆さんと相談し、子供たちに紹介したいと思います。

午後には、大和町役場で、教育論文集の表彰式に参加しました。本校からも共同研究の他に個人論文として菅原浩一先生、佐藤美香子先生、赤坂優樹先生が論文を発表され、特に、上野教育長先生からは、来月で定年退職を迎える菅原先生が、論文を発表されたことについて、敬意と労いの言葉を掛けていただきました。私もまったく同感で、菅原先生のように学び続ける姿勢が小野小学校の教育活動を支えていることは間違いのないように思いました。

また、美香子先生、赤坂先生も初任研のレポート等で忙しい中での執筆、ありがとうございました。

一方、初任の先生がこの論文集に応募するのは、その仕事量から考えると大変だったように思います。この点は今後の課題として学校で受け止めなければならない部分ではないでしょうか。

コロナ禍の中で、様々な工夫をしながら令和2年度実践が重ねられました。令和3年度は夏の弘済会の論文と冬の大和町の論文執筆、ご自分の実践を振り返る機会としてたくさん先生方が自主的に応募し発表する機会となることを期待します。

（文責：手代木）

